

部 会 報 告

ISO/TC 127/SC 2/WG 26 (ISO 10968 土工機械—操縦装置) 2017年2月ドイツ・フランクフルト 国際作業グループ会議報告

標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会国際専門家 (Expert) 間宮 崇幸 (コマツ)

国際標準化機構 ISO の専門委員会 TC 127 (土工機械) 傘下の国際作業グループ ISO/TC 127/SC 2/WG 26 (ISO 10968 土工機械—操縦装置改正) 作業グループ会議が 2017 年 2 月にドイツ国フランクフルト市で開催され、前回 2016 年 10 月に引き続き、協会標準部会 ISO/TC 127 土工機械委員会から国際専門家 (Expert) として出席した間宮崇幸氏の報告を紹介する。

1 開催日：2017 年 2 月 6-7 日

2 開催地：ドイツ フランクフルト VDMA 近郊
ATRICOM Sachsenhausen 会議室

3 出席者：13 名 (うち WebEx 接続 3 名)

スウェーデン (SIS) 3 名

米国 (ANSI) 2 名

英国 (BSI) 1 名

ドイツ (DIN) 2 名

イタリア (UNI) 1 名

チェコ (UNMZ) 1 名

日本 (JISC) 3 名

4 概要

- ・日本のみ反対で承認された CD 投票時に寄せられた各国コメント (全 68 件, うち日本コメント 22 件) を審議した。
- ・日本からの提案のうち、油圧ショベルのブレードについては、ドーザの附属書 E でなくアタッチメントの附属書 B で New B.8 ブレードコントロールとして取りまとめることになった。
- ・今回の審議結果と専門家への回覧結果をもとに、今後 DIS 投票に進む。

5 主な審議内容

- 1) 第 3 章 用語の定義について、スタイルと機能等が混在していたので、階層構造に従って再整理した。“pedal”を追加，“treadle pedal (dual function pedal)”の定義追加は却下，“proportional control”の定義文言を変更，“multipurpose”を“multifunctional”に統一した。
- 2) 表 1 操縦装置間隔について、同時に操作せず

同一足で踵をつけて行う足踏み式は、最小間隔 30 mm でもよいとの例外規定を維持した。さらに、スクレーパのツインエンジンのような、同一足で同時に並行する 2 つのペダルを操作する際の規定を追加した。

- 3) 6.4 操作力の強度下限値について、既にこれまでの WG で議論した結果として反対し、変更されないことになった。また、他の ISO (ISO 5010 ステアリング) で許容強度は最大強度の 2 倍との記載があり、ISO 10968 と整合しないとの指摘があった。ISO 5010 第 2 次 CD 投票時に、ISO 10968 の記載のように文言を変更する予定。
- 4) 表 2 操縦装置操作力について、通常力 (頻繁な操作) と最小力を再記載すべきとの提案に反対し、CD 投票時の最大値のみ記載のままとなった。理由は、これまで WG で議論したように、通常力の頻繁とはどのように規定したらいいか不明であること、最小力はマシンタイプにより異なり一様に規定できないため。
- 5) 油圧ショベルのブレード操作方法について追加した。ただし、日本提案は Annex E への追加であったが、Annex E はドーザについてのみのため、Annex E への追加は却下された。追加箇所は、Annex B アタッチメントに新たに B.8 ブレードコントロールの項目を設け、CD 投票時の日本コメントを反映させた。油圧ショベルのブレードは全世界で使われているため、今後、B.8 文章をベースに DIS 投票コメントで各社の操作方法を反映させる予定。
- 6) Annex 記載の操作方法のうち、他方法の追加および変更提案について、一本レバーのスキッドステアローダの操作方法を追加し、油圧ショベルの前進後進時のクローラ相対速度での記載に変更した。日本提案の一部は、5.1.6 項「Annex に記載の項目はあくまでも典型的な形式、位置、操作方法である」ことから、典型的でないとして却下された。

6 日本への宿題事項

- ・DIS 投票用の Annex の図を指定のフォーマットで用意し、2017 年 4 月までに送付する。
- ・今回の WG 会議結果を反映させた文章 (N60) の内容を確認し、Editorial/Technical コメントを WG26 事務局に送付する。
Editorial は DIS 投票用文章に反映させるため、なるべく現段階でコメントする。
- ・特に、油圧ショベルのブレード操作方法を確認する。その際、説明用の絵が必要であれば準備し、WG26 事務局に送付する。

7 今後のスケジュール

- ・2017 年 3 月まで 専門家は、ISO 改正文章 (N60) の内容を確認し、Editorial と Technical を明記し WG26 事務局へ回答する。
 - ・2017 年 4 月まで 日本は、DIS 投票用の図を作成する。
 - ・2017 年 4 月まで WG26 事務局は、上記 2 点 (Technical コメントは DIS 投票後の WG で議論) を反映させた DIS 投票用案文 (N62) を作成する。
 - ・2017 年 6 月まで DIS 投票開始、投票期間 20 週。
 - ・2018 年 6 月 ISO 発行 (前回から変更なし)。
- 次回 WG：2017 年 10 月の 2 日間、スウェーデン
ストックホルム SIS の予定。

8 所感

今回、日本からの英文コメントは文章が長く、海外の委員になかなか意図が伝わらなかったケースが散見された。ISO 16001 コンビナーとしての経験からも、英文コメントは

- ・シンプルかつ箇条書きに
 - ・Proposed change の欄に具体的な提案を記入し
 - ・一つの欄に異なるトピックスを盛り込まない
- 様に記載されると、取り違えなくスムーズに進行すると感じた。

については、各コメント提出者は上記 3 点に則り、きちんと和英案文をつけた提案が必要と感じた。

参考資料

- N49：CD 投票時の改正案文
- N56：CD 投票時の各国コメント
- N57：今回 WG 会議の議事案
- N58：今回 WG 会議の議事録、決議
※今後追加されられると思われるもの
- N59：各国コメントへの WG 会議での議論結果 (N56 の差し替え)
- N60：WG 会議結果を盛り込んだ改正案文 (N49 の差し替え)
- N61：WG 会議参加者リスト
- N62：専門家からの回答 (Editorial 分と新しい図) を反映した DIS 投票用の改正案文 (N60 の差し替え)